

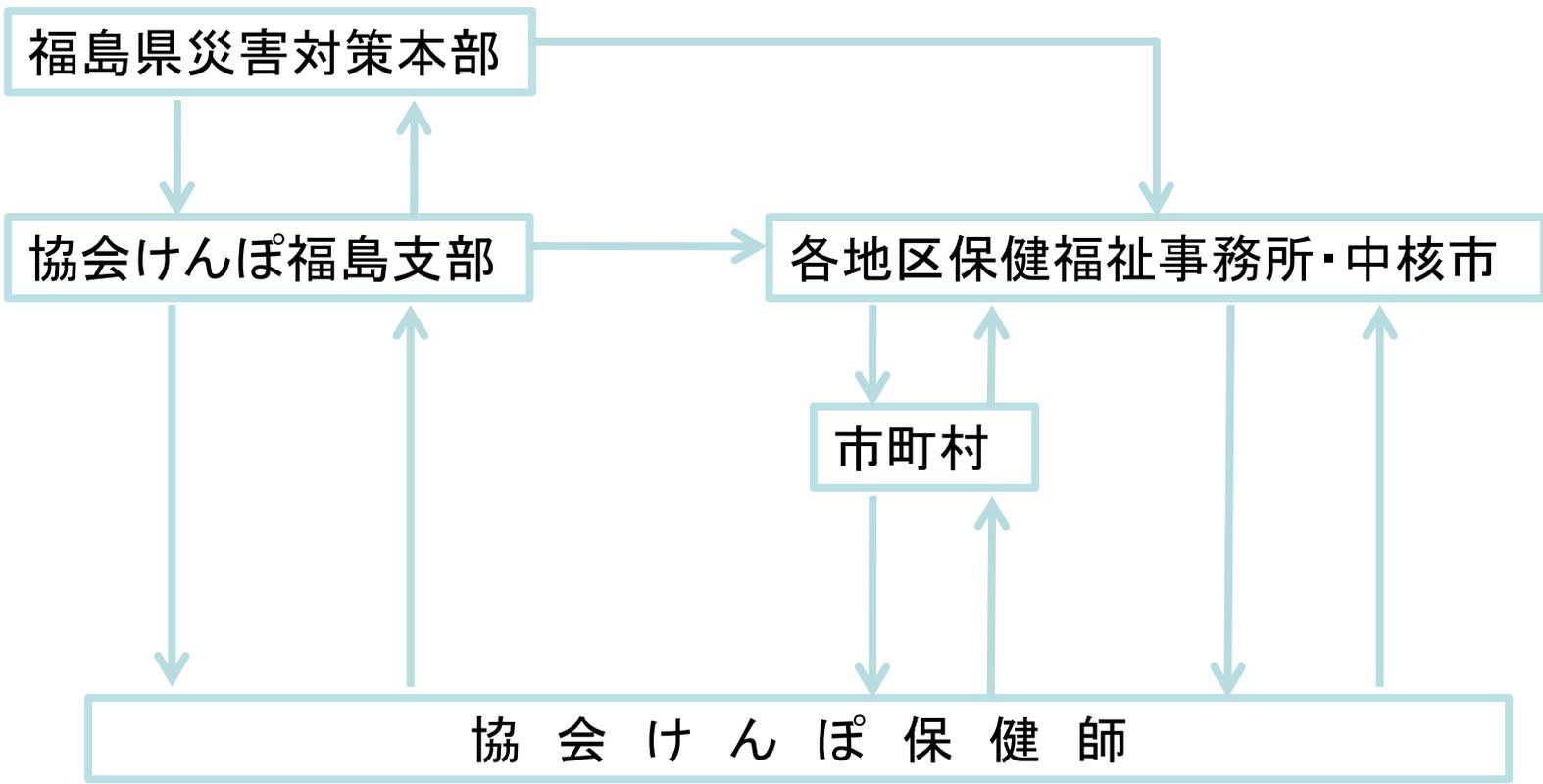
【目的】

東日本大震災時、福島県災害対策本部の要請を受け、協会けんぽ福島支部保健師が、避難所支援活動に参加した。

当時の状況と活動の経過を振り返り、報告することで今後の一助とする。

【経過・結果】 災害支援時の流れ図

組織の関わりフロー



避難所支援活動の方法



保健師自宅

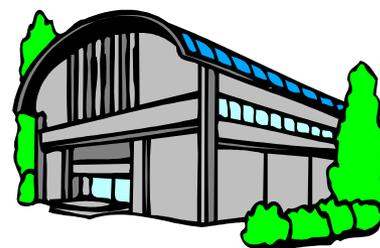
県・市を經由して



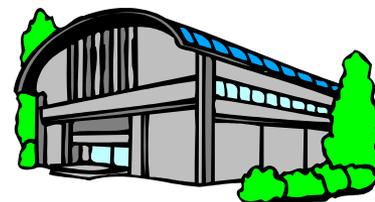
県保健福祉事務所・
市町村



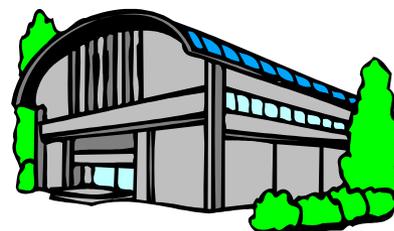
県・市町村保健師
とペアで巡回



避難所B



避難所C



避難所D

- 〈準備物〉
- ・水銀血圧計
 - ・聴診器
 - ・体温計
 - ・手指消毒用アルコール
 - ・使い捨てグローブ
 - ・マスク
 - ・ゴミ袋
 - ・グリーンジャンパー
 - ・腕章

直接支援場所へ



避難所A

地区別避難所支援結果

合計

- ・延べ172日間
- ・保健師延べ276名
- ・支援箇所延べ698ヶ所
- ・相談者数6,843名

県北地区
延べ17日間
保健師延べ29名
支援箇所延べ68ヶ所
相談者数671名

相双地区
延べ31日間
保健師延べ31名
支援箇所延べ137か所
相談者数1903名

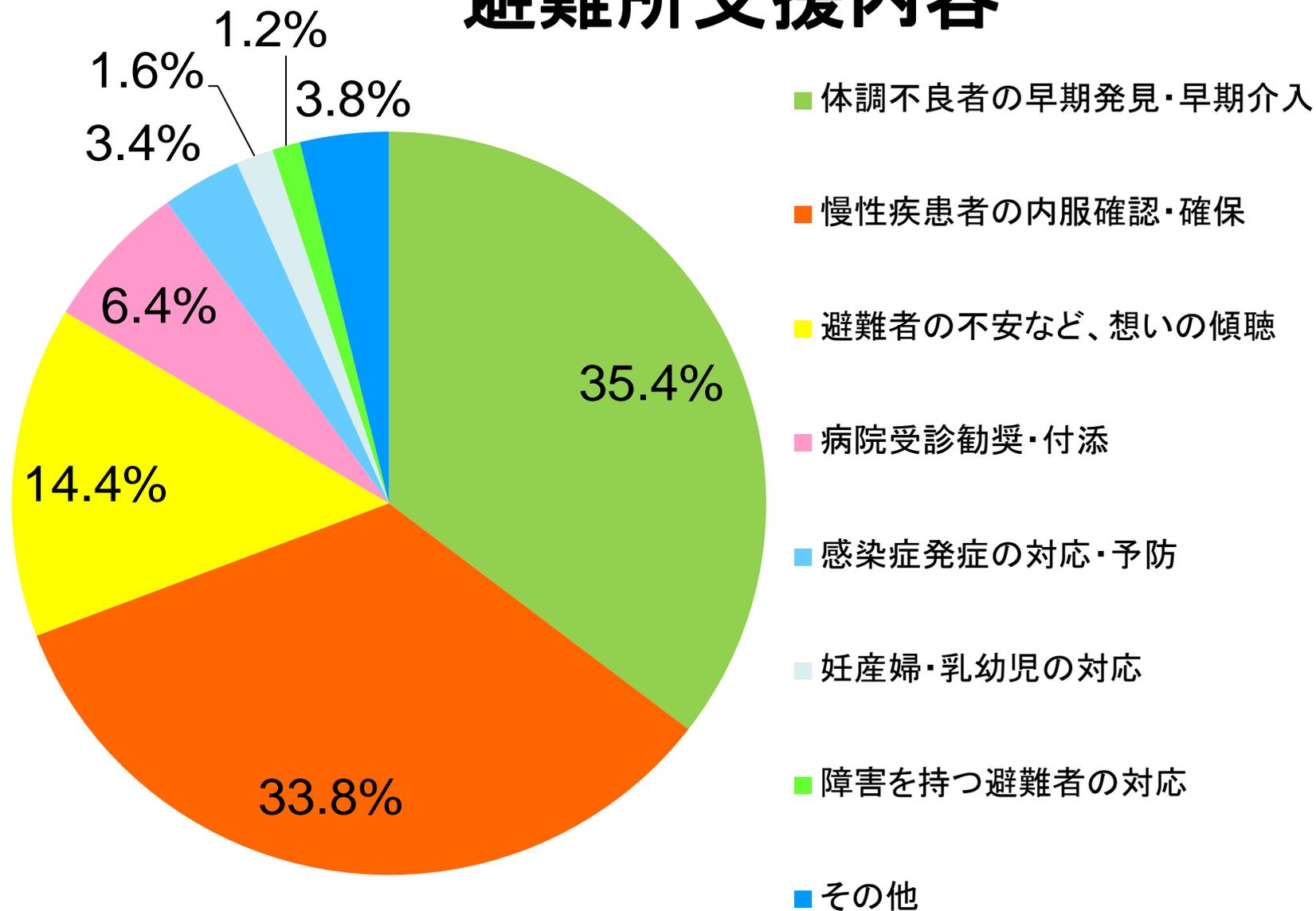
会津地区
延べ24日間
保健師延べ35名
支援箇所延べ85ヶ所
相談者数632名

県中地区
延べ60日間
保健師延べ100名
支援箇所延べ324か所
相談者数2133名

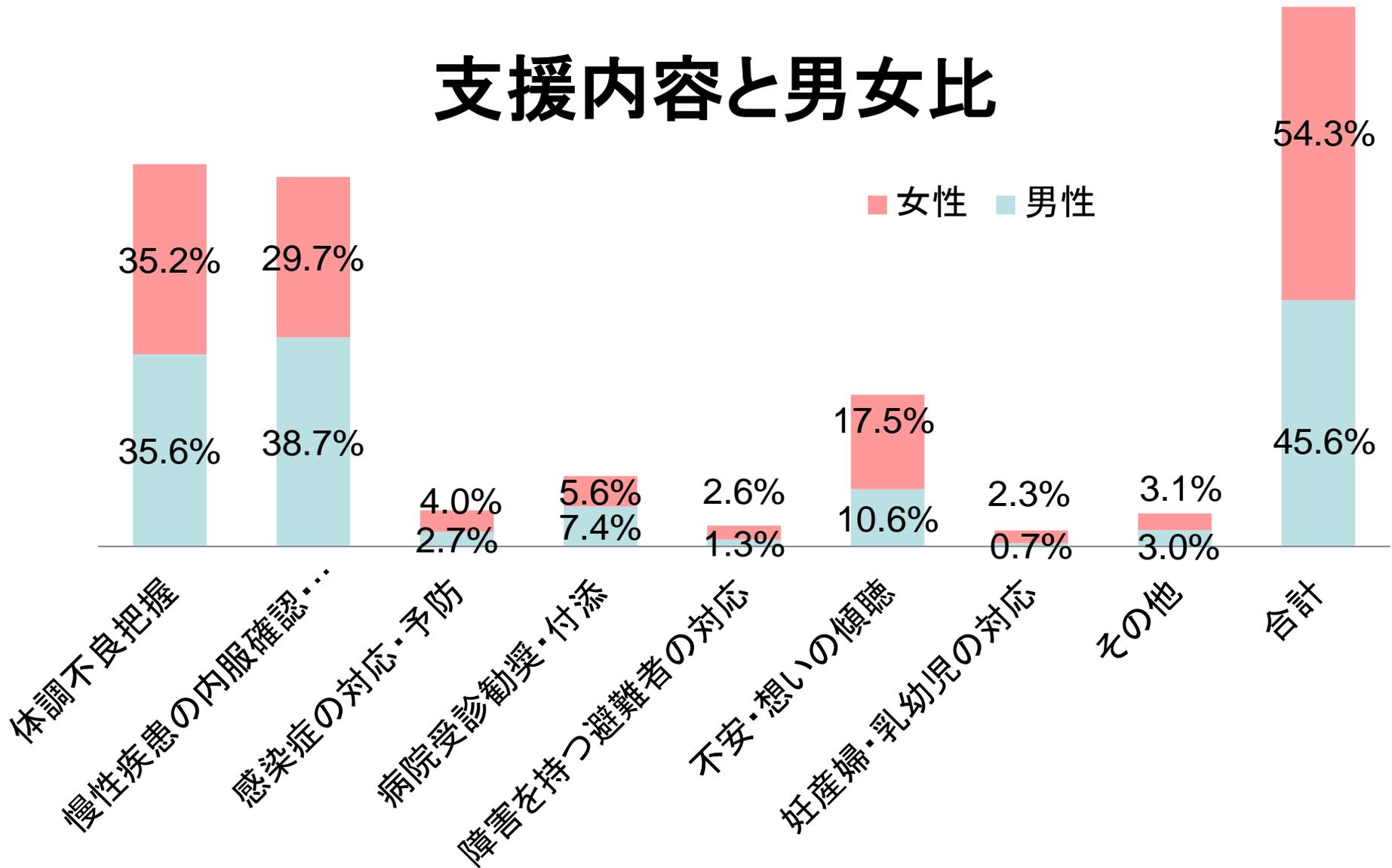
いわき地区
延べ34日間
保健師延べ75名
支援箇所延べ77か所
相談者数1452名

県南地区
延べ6日間
保健師延べ6名
支援箇所7か所
相談者数52名

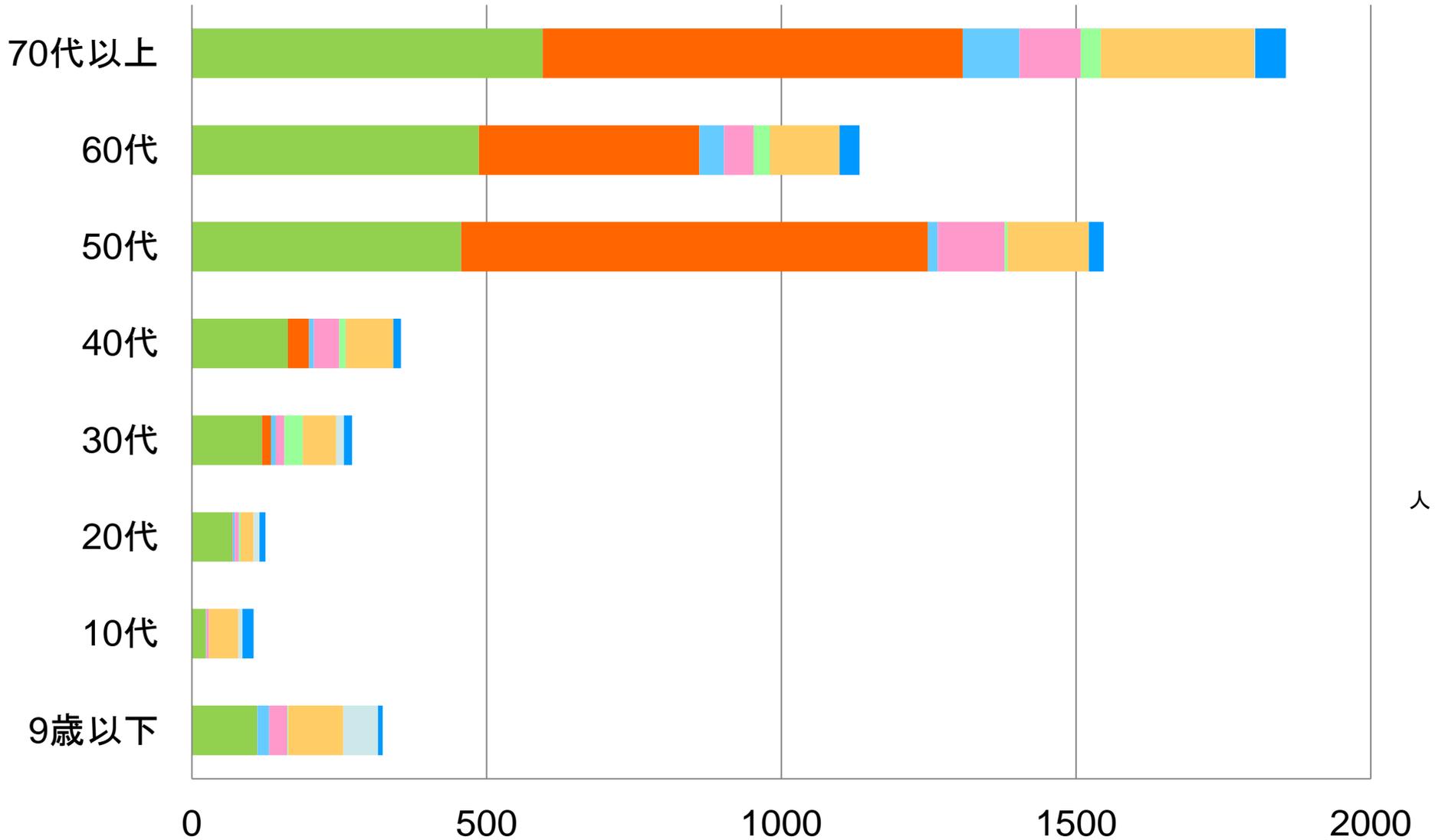
避難所支援内容



支援内容と男女比



年代別相談内容



【考察】

①震災直後、加入事業所は従業員の安否確認や事業再開に向けて体制を整えることが先決であり、健康相談のニーズは一時的に低くなる。

特定保健指導の個人への継続連絡には細心の注意を行ったが、生活が落ち着かない様子やそれどころではない等の回答があり、難しかった。

②協会けんぽの加入者は、県民の約1/3を占めるため、避難所での支援によって加入者を含めた被災者へ支援できたことは有効であった。

③支部の通常訪問業務の中で培われた、起動力、自己完結能力、支部への連絡・報告の徹底が今回の支援活動時に強みとなった。

④ 平常時からの地域・職域連携推進協議会での連携が初動に活かされた。

⑤ 加入事業所は中小規模事業所が大多数を占めているため、大規模災害に対して事業所の体制が脆弱な場合が多く、協会けんぽが加入事業所にどのような支援を行えるか、今後検討することが課題である。



写真 1

(協会けんぽ保健師とJMAT)



写真 2

(協会けんぽ保健師と福岡市保健師)



写真 3

(協会けんぽ保健師と相馬市保健センター所長)

【まとめ】

- ・震災後の支部では、支部自体が混乱しており、加入者の状況把握することが難しかった。
- ・避難所支援で、協会けんぽの加入者に対応することができたことは有効であった。
- ・今後は事業所との距離をさらに縮め、有事の際に早期に情報を把握し、対応策をとれるような関係を作らなければならぬ。
- ・今回のような大規模災害で加入事業所に直接支援ができない場合は、行政、保険者の垣根を越えた支援活動を行うことも一つの支援対策といえる。
- ・今後も放射能不安、食の安全、運動低下、生活不安など、最大限の対応策を講じ、加入者の健康管理ができるよう支援を続けていきたい。